

Listen and Speak! らくらく英検2級 II

～ 英語ができる人になる ～

第9回 Social relationships 日本語訳

* はじめに *

ようこそ “Listen and Speak! らくらく英検2級 セカンドシリーズ”へ。

この番組は英検でおなじみの、日本英語検定協会がお送りする、全ての『英語ができる人』になりたい人たちのための番組です。これから英検2級や準2級を目指す人はもちろん、さらにその上を目指して、本当に『英語ができる人』になりたいというあなたにとって必ず役に立ちますよ。後半はちょっと難しかったり、大変だったりするかもしれませんが、私、伊藤太と頼れるパートナーの Gary Scott Fine がしっかり『英語ができる人』になりたいあなたをサポートします。

Yes, this program will not only help you succeed on Eiken Tests, but it will also help you improve your English ability, especially listening and speaking. However, the real aim of this program is to help you learn more than English itself.

We are not just interested in whether you can use English, but in what you can do with English.

Program Number 9 “Social relationships”

さて、今回のタイトル “Social relationships” は「社会的な人間関係」というような意味です。我々は趣味を通じて、あるいは様々な地域的社会的活動を通じて、他の人たちとの関わり持ち、また、持とうともしていると思います。今回は、こうした社会的な人間関係を題材に深く考えながら、本格的な英語力を養うための基礎作りにチャレンジしていきましょう。それでは、この後のヒントになるかもしれないので、まずはゲーリーと私の会話を聞いてください。

■Introduction (導入の対話)

G: やあ、フトシ。眠そうだね。夕べ良く寝れなかったのかい？

F: ああ、寝れなかったよ。

G: なぜだい？

F: うちのネコちゃんのせいだよ。いつも泣いてばかりいるんだ、明け方の3時とか4時とかでもね。窓のそばに座って外を見て… 外に出たがっているんだよ。

G: 君が飼っているのはそのネコだけかな？

F: ああ、そうだけど。どうして？

G: ネコちゃんはさみしいんだよ。君と君の奥さんのことが大好きなのは確かだと思うんだけど、それは他のネコたちと社会的関係があるのと同じではないからね。

F: ふーむ、それでずっと窓の外を見ながら泣いてるってわけか。僕らに窓を開けて外に出してほしいんだよな。

G: もし君がネコちゃんの立場なら、肉球じゃなくてね、どう思うかな？

F: ハハハ、僕ならさみしく感じるだろうし、他のネコを探して友だちになろうとするだろうね。

G: それが自然だよな。僕らにとっても同じだよ。社会的関係がないと、ネコだけじゃなく我々人間だってさみしく感じるし、ときに病気になることだってある。そして、たまたまだけど、社会的関係が今月のポッドキャストのテーマだね。それじゃ、この辺りで君のネコちゃんのおしゃべりは止めてにして今日のエクササイズを始めようか。

F: 同感だね。

G: オーケー、それでは…

G/F: 始めよう！

1 Exercise 1 dialogue (対話)

これから流れる男女の対話を聞いて、後の問いに答えてください。これから流れる対話は過去の英検に出題されたリスニング問題の一つです。実際の問題は、対話を聞いてから適当な選択肢を選ぶ形式ですが、ここではちょっと頑張って、ゲーリーの質問に自分の言葉を使って英語で答えてみるようにしてください。いいですか、もう一度言いますよ。対話を聞いた後、ゲーリーの質問に自分の言葉で答えてくださいね。二次試験の面接対策にもなりますし、とても役に立ちますよ。それでは、始めます。

対話を聞いて次の質問に答えなさい。【2014年度 第3回 2級 No.12】

女性: ワオ! その曲、とても素敵だった。あなたがそんなにギターが上手だとは知らなかったわ。

男性: ありがとう、アン。僕が初めて書いた曲なんだ。

女性: きっと、若いときにたくさん時間を使って音楽のレッスンを受けていたのね。

男性：いや、実際にはそうじゃないんだ。祖母のガレージの中でギターを見つけてね。ギターの弾き方に関する本を買って、それで一人で毎日放課後に練習して習得したんだよ。

次の問いに自分の言葉で答えなさい。

質問： その男性はどのようにしてギターを弾けるようになったのですか。

それでは、語彙と会話の表現について確認をしましょう。

■語彙と表現を学ぼう

私の日本語を聞いて、ゲーリーに続いて英語で発音してください。

- | | |
|------------------|--------------------------|
| 1. きっと～だと思う、確信する | I bet ～ |
| 2. ～して多くの時間を過ごす | spend a lot of time ～ing |
| 3. ～することによって | by ～ing |
| 4. ～できるようになる | learn to ～ |

それでは、少し答え方についてヒントを出しましょう。Questionは“How did the man learn to play the guitar?”です。どうやってギターが弾けるようになったのか、その経緯を尋ねているわけですから、この男性が自分で行った行為、つまり、まず本を買ったこと、そして、毎日練習したこと、などが答えの中心となりますね。それでは、この点に注意してもう一度聞いてみましょう。

対話を聞いて次の質問に答えなさい。【2014年度 第3回 2級 No.12】

女性：ワオ！ その曲、とても素敵だった。あなたがそんなにギターが上手だとは知らなかったわ。

男性：ありがとう、アン。僕が初めて書いた曲なんだ。

女性：きっと、若いときにたくさん時間を使って音楽のレッスンを受けていたのね。

男性：いや、実際にはそうじゃないんだ。祖母のガレージの中でギターを見つけてね。ギターの弾き方に関する本を買って、それで一人で毎日放課後に練習して習得したんだよ。

次の問いに自分の言葉で答えなさい。

質問： その男性はどのようにしてギターを弾けるようになったのですか。

■模範解答

模範解答を聞いて、大事な点を考え、自分の答えと比較してください。

質問： その男性はどのようにしてギターを弾けるようになったのですか。

He bought a book on how to play the guitar and learned by practicing every day by himself.

彼はギターの弾き方に関する本を買って、毎日一人で練習することで弾けるようになった。

では少し確認しましょう。先ほどのヒントの通り、“bought a book on how to play the guitar” と “learned by practicing every day by himself” が質問に対する答えの具体内容となります。ガレージでたまたまギターを見つけたことはきっかけにはなったかもしれませんが、“How did he learn to play the guitar?” 「どうしてギターを弾けるようになったのか」を説明することにはなりません。このように、相手の質問に対して簡潔で的確に答えることを意識しながら、モデルアンサーの真似をしてみるのも効果的です。

2 Exercise 2 passage (文章)

このエクササイズでは、短い文章が読まれた後にゲーリーが一つ質問をしますので、自分が思ったことを自由に答えてください。主語と正しい答え方に注意して、聞かれたことに対してまっすぐ答えてくださいね。

英文を聞いて次の質問に答えなさい。【2014年度 第3回 2級 No.18】

本日の乗馬クラスへようこそ。今日、私たちはいつも乗馬の前後にしなければならないことについて学ぶこととなります。馬体、特にその足がよい状態にあることを確認するのが大変重要です。これから様々な種類のけがとその見分け方についてお話します。それでは、皆さん、馬小屋へ行きましょう。

次の問いに自分の言葉で答えてください。

質問：今日の乗馬レッスンの主な目的は何ですか。

さあ、きちんと聞き取れましたか。それでは、少し語彙と英文の表現を確認しましょう。

■語彙と表現を学ぼう

私の日本語を聞いて、ゲーリーに続いて英語で発音してください。

- | | |
|----------------|-------------------|
| 1. ～であることを確認する | make sure that ～ |
| 2. 良い状態にある | in good condition |
| 3. けが | injury |
| 4. ～を見分ける | recognize ～ |

質問は “What is the main purpose of today's horseback-riding lesson?” 「今日の乗馬レッスンの主な目的は何ですか。」という意味ですね。初めの方で、“Today we are going to learn about something you need to do before and after every ride.” という発言がありますが、これをそのまま答えても、「主な目的」を具体的に答えることにはなりません。この後の具体的な発言内容に注意して、答えの中心となる事柄をつかみましょう。それではこのことも意識して、もう一度聞いて質問に答えてください。

英文を聞いて次の質問に答えなさい。 【2014年度第1回 2級第25問】

本日の乗馬クラスへようこそ。今日、私たちはいつでも乗馬の前後にしなければならないことについて学びます。馬体、特にその足が良い状態にあることを確認することは大変重要です。これから様々な種類のけがとその見分け方についてお話しします。それでは、皆さん、馬小屋へ行きましょう。

次の問いに自分の言葉で答えてください。

質問：今日の乗馬レッスンの主な目的は何ですか。

■模範解答

模範解答を聞いて、自分の答えと比べてください。

質問：今日の乗馬レッスンの主な目的は何ですか。

The main purpose of the lesson is to learn how to make sure that the horse is in good condition, especially its feet, and how to recognize different types of injuries.

そのレッスンの主な目的は、馬体が、特にその足が良い状態にあるのを確認する方法と、様々なけがの種類を見分ける方法を学ぶことです。

さあ、どうでしたか。自分がその場において実際にインストラクターの話を聞いているような感じで、聴覚だけでなく、視覚も使って想像してみると、「言いたいこと」がはっきりしてくるかもしれません。モデルアンサーを参考にしながら、実際にその場にいる感じを想像してみると、「生きた英語」を学ぶいい練習になりますよ。

■英文を使った反復練習

さあ、ここからは、放送された英文について **Repetition Drill** を行います。repetition は反復でしたね。ポーズの間にゲーリーの英語をできるだけそっくりに真似してみましょ。単語の発音だけでなく、イントネーションや雰囲気も真似してくださいね。

1) 反復練習

それぞれにポーズの間に反復してください。何度も繰り返して練習してくださいね。そうすれば、きつともっと上手くできるようになりますよ。準備はいいですか。それでは、始めます。

Welcome to today's horseback-riding class. //

Today, we're going to be learning /
about something you need to do /
before and after every ride. //

It is very important to make sure /
that the horse is in good condition,
especially its feet. //

I'm going to tell you /
about different types of injuries /
and how to recognize them. //

OK, everyone, let's go to the horse barn. //

どうでしたか。上手に真似ができると楽しいですね。さあ、次は『英語ができる人』は必ずと言っていいほど練習するシャドウイングにいきます。私が実際、少しシャドウイングのお手本を示しますね。ゲーリーの後に続いてシャドウイング、つまり、ゲーリーの言葉の影を追うような形で、聞きながらゲーリーの言葉を真似していきます。

2) シャドーイング練習 1

聞きながら、それぞれのパートごとにシャドーイングしてください。

(G → F)

Welcome to today's horseback-riding class. //

Today, we're going to be learning /
about something you need to do /
before and after every ride. //

It is very important to make sure /
that the horse is in good condition,
especially its feet. //

I'm going to tell you /
about different types of injuries /
and how to recognize them. //
OK, everyone, let's go to the horse barn. //

要領はつかめましたね。次は実際に自分で shadowing にチャレンジしてください。shadowing は自分で speaking をするという負荷をかけながら listening をするので、筋トレと同じように「耳トレ」になります。必ず listening の能力が向上しますので、できるまで何度でも繰り返してください。

聞く音声の方を大きくして、自分の声はあまり聞こえないようにすると一層効果が上がりますよ。

2) シャドーイング練習 1

聞きながら、それぞれのパートごとにシャドーイングしてください。
準備はいいですか。それでは、始めます。

Welcome to today's horseback-riding class. //
Today, we're going to be learning /
about something you need to do /
before and after every ride. //
It is very important to make sure /
that the horse is in good condition,
especially its feet. //
I'm going to tell you /
about different types of injuries /
and how to recognize them. //
OK, everyone, let's go to the horse barn. //

どうですか。できるようになるとすごく楽しいし、やりがいがあるでしょう。次はセンテンスの途中で区切りはありませんよ。各センテンスの間も短いですから、一気にパッセージ全体をシャドウイングできるように頑張ってくださいね。できたらとても達成感が得られますよ。

3) シャドーイング練習 2

センテンスの全体を最初から最後までシャドーイングしてください。何度も練習してくださいね。きっと達成感が味わえるはずですよ。準備はいいですか。それでは始めます。

Welcome to today's horseback-riding class. //

Today, we're going to be learning about something you need to do before and after every ride. //

It is very important to make sure that the horse is in good condition, especially its feet. //

I'm going to tell you about different types of injuries and how to recognize them. //

OK, everyone, let's go to the horse barn. //

3 Challenge passage & opinion (文と意見)

さて、いよいよ最後のエクササイズ、チャレンジのコーナーです。ここからは一気に英語だけで進めていきますから、しっかり集中してくださいね。

次の英文を聞いて、ゲーリーの質問に答えてください。【2014年 第2回 2級 No. 24】

マックスはメープルトンプレーヤーズというアマチュア劇団のメンバーです。彼らは最近新しい監督を迎えたのですが、彼女はその劇団が自分たちの演劇を改善する手助けをしてきました。彼女はまた芝居をより面白くするためのアイデアをたくさん持っています。最近、観客の数が増えてきています。マックスは将来、この劇団がより大きな劇場で上演することができるかもしれないと思っています。

さて、これからゲーリーがこの文について幾つか重要な点を挙げ、そして質問をします。その質問に答えてください。できるだけ上手く自分の意見を表現できるようにしてください。

この文によれば、マックスという人はアマチュア劇団のメンバーです。新監督による改善のおかげで観客数が増えてくるにつれて、マックスは劇団がより大きな劇場で上演できるようになることを望んでいます。

マックスのアマチュア劇団のように、ほとんどの趣味は社会的関係を広げる傾向があります。人々が自分と何らかの共通点や特に趣味のような共通の興味を持つ他者を見つきたいと思うのは当たり前のことです。この場合、増加した観客数がより大きな劇場につながり、そして今度は劇団に参加するメンバーの増加につながるかもしれません。この趣味はこのようにマックスを次第により広範な社会的関係へと導く可能性があるのです。

ブリガムヤング大学のある研究グループが行ったある最近の研究によれば、社交的な人は孤独な人よりも肉体的に健康であるかもしれないということです。その研究グループは居住するコミュニティ内に10人以上の知り合いがいる人は2人以下の人に比べて流感への感染可能性が15%減少することが分かったのです。この分析はまだ完全ではありませんが、研究者らは社会的活動のパターンと免疫力の間に何らかの関係があるのではないかと考えています。社交的な人の免疫システムは社会的活動や社会的関係によって何らかの形で高められていることもあり得るのです。

しかしながら、アメリカの作曲家、ヘンリー・ロリンズがかつて言ったことにも同感するかもしれません。「孤独は人生に美を加える。孤独は夕日を一層輝かせ夜の空気をより澄ませてくれる」

さて、皆さんに質問をしたいと思います。あなたは地域社会の中に社会的関係を持って生活したいか、それともそうしたものが無い状態で生活したいか、どちらを好みますか。自分の答えを説明してください。

■模範解答

さあ、フトシの言うことに耳を傾けてみましょう。彼が模範解答を提示します。よく聞いて自分の答えと比べてください。

私は地域社会の中に社会的関係を持たずに生活するよりも、社会的関係を持って生活する方を好みます。

確かに、私たちはときどき、例えば、公園の掃除や町内会への出席、途中たまたま会った人と取るに足らない会話をするなど、社会的活動に参加するのがわずらわしいと感じることがあります。

しかし、そうしたことにわずらわしさがあってとしても、それらはまた、あなたの日常生活を豊かにしているのです。

第一に、つまらないと思えるようなことでさえ、よりまとまりのある共同体の基礎を作り、結果として社会的安全を高めることとなります。隣人同士が互いに知り合いで、強い社会的ネットワークがあれば、犯罪を起こそうとする人間にとってその地域で犯罪行為を行うのがより困難になるのです。

第二に、私たちは毎日の生活の中で自然災害についてあまり考えませんが、地震や同様の災害に襲われたとき、同じ地域に住む知り合いの方が、遠くに住む親せきよりも、ずっと身近で信頼できる支えとなるかもしれません。

最後に、ヘンリー・ロリンズの言葉を私なりに解釈してみたいと思います。「孤独は人生に美を加える。孤独は夕日を一層輝かせ夜の空気をより澄ませてくれる」確かにそれは真実です。しかし、それは自分自身の意思で孤独を選択するときに最も真実なのであり、独りで暮らすより他ないとき、その真実味は薄れてしまうのです。

どうでしたか。フトシの言ったことは聞き取れましたか。彼の主張の要点は分かりましたか。オーケー、それでは、彼がたった今言ったことを説明しますから、よく聞いてください。

はい、ゲーリーはまず、マックスという人がアマチュアの劇団に参加していて、その観客数が新しい監督の手腕によって増えてきたこと、そして、マックスは劇団がもっと大きな劇場で公演できるようになれるようにしたいと思っていることなど、本文の内容を要約してくれました。

そして、アマチュアの劇団に限らず、趣味というものはたいてい、社会的な人間関係を広げるものとした上で、ある研究について紹介してくれました。

同じ地域の中に 10 人以上の知り合いがいる人の方が、2 人以下の知り合いしかいない人と比べると、インフルエンザの感染率が 15%ほど低いというものです。原因は完全に分かっているわけではないものの、社会的な活動によって免疫力が高められる可能性があるとのこと。

その一方で、"Loneliness adds beauty to life. It puts a special burn on sunsets and makes night air smell better."というアメリカ人ソングライターの言葉を引用して、孤独の利点も紹介してくれました。

その上で、あなたは地域での社会的人間関係を持って暮らす方がいいか、それとも、そうしたことのない生活がいいか、その答えを説明するように求めましたね。

これに対して私は、冒頭で前者を好むという「主張」を明確に提示しました。

そして、「譲歩」として社会的交流の面倒な側面に触れたものの、「積み重なれば」という「合理的条件設定」をした上で、プラスになり得るという「主張」を提示しました。

これを受けて、**First** ～, **Second** ～, **Finally** ～, と三つの「具体的な根拠」を提示し、主張を補強したのが分かりましたか。

このように、冒頭で主張を提示して立場を明確にした上で、「譲歩」→「条件付き主張」→「根拠」、「確かに○○だ、しかし、○○ならば○○だ、なぜなら○○だからだ」という論理展開はシンプルで強力な方法ですから、皆さんもぜひ参考にしてくださいね。

ぜひ、英検の公式ウェブサイトからスクリプトをダウンロードして、英文を確認してください。前回までのものと比較すると一層効果的です。

さあ、フトシの話をもう一度聞いてみましょう。よく注意して聞き、彼の意見の表現方法に注目してください。

私は地域社会の中に社会的関係を持たずに生活するよりも、社会的関係を持って生活する方を好みます。

確かに、私たちはときどき、例えば、公園の掃除や町内会への出席、途中たまたま会った人と取るに足らない会話をするなど、社会的活動に参加するのがわずらわしいと感じることがあります。

しかし、そうしたことにわずらわしさがあってとしても、それらはまた、あなたの日常生活を豊かにしているのです。

第一に、つまらないと思えるようなことでさえ、よりまとまりのある共同体の基礎を作り、結果として社会的安全を高めることになります。隣人同士が互いに知り合いで、強い社会的ネットワークがあれば、犯罪を起こそうとする人間にとってその地域で犯罪行為を行うのがより困難になるのです。

第二に、私たちは毎日の生活の中で自然災害についてあまり考えませんが、地震や同様の災害に襲われたとき、同じ地域に住む知り合いの方が、遠くに住む親せきよりも、ずっと身近で信頼

できる支えとなるかもしれません。

最後に、ヘンリー・ロリンズの言葉を私なりに解釈してみたいと思います。「孤独は人生に美を加える。孤独は夕日を一層輝かせ夜の空気をより澄ませてくれる」確かにそれは真実です。しかし、それは自分自身の意思で孤独を選択するときに最も真実なのであり、独りで暮らすより他ないとき、その真実味は薄れてしまうのです。

■ Closing Dialogue (結びの対話)

G: 今回もまた、君は上手く組み立てられた構造を使って自分の意見を効果的に提示するように役立てていたね。この方法は英会話力を改善したいリスナーの皆さんにとってとても役に立つと思うよ。僕はリスナーの皆さんにスクリプトをダウンロードして君の答えの構造を研究することを強く勧めたい。

F: ありがとう、ゲーリー。だけど、正直なところ、僕自身モデルアンサーで話したことに完全に同意することができていないんだよ。自分の本音とは少し違いがあるような気がするんだ。

G: 本当かい？ だけど、君の意見は一貫性もあったし説得力もあったよ。本音と一致しないと君を感じる点は正確にはどんなことかな？

F: 以前、このシリーズの第2回目で話したように、僕は一人でウェイトトレーニングをする方が好きだし、スポーツスタジオで知らない人たちに囲まれるのが苦手なんだよ。

G: ああ、覚えてるよ。知らない人たちとスタジオでダンスするくらいなら川でワニと一緒に泳ぐようがましだってね。そして、筋肉を増やすためには一人でウェイトトレーニングをやらなきゃいけないとも言ってたね。

F: そう。「孤独は人生に美を加える。孤独は筋肉を一層大きくし、より多くの女の子を近づける」

G: ふーむ、君の目的は女の子にもてること、言い換えれば、より多くの社会的関係を持つことのようなだね。その目的を達成するために、君は一人でウェイトトレーニングをするより他ないかもしれないってわけだ。君が言いたいことはよく分かるよ。「孤独は人生に美を加える。」確かにそれは真実だ。でも、それは君が自分の意思で一人であることを選択しているときに最も真実なのであって、一人でトレーニングするより他ないのなら、真実味は薄れるねえ。

F: ああ、また一本取られたよ！

さあ、今回のレッスンはどうでしたか。後半は少し難しかったかもしれませんね。ぜひ、英検のウェブサイトからスクリプトをダウンロードして復習してください。それから何度も聞き直して、自分でも話せるように練習してみてくださいね。Repetition や Shadowing だけでなく、話す内容の構成を組み立てること、そして相手に伝えること、こうしたトレーニングを続ければ、あなたも必ず『英語ができる人』になります。

ところで今回、セカンドシリーズ第9回目のタイトルは“Social relationships”でした。ネコも人間も他者と何らかの関係を持つことが大切なのかもしれません。たまに、ネコ語がしゃべれば、なんて思うことはありませんか。しっかり勉強すればあなたも『ネコ語ができる人』になります、なんてことはないにしても『英語ができる人』にはきっとなれますよ。

Well, then...

See you next time!

<講師陣プロフィール>

伊藤 太 (Futoshi Ito)

大手予備校・有名進学塾等で英語講師を務め、東大クラス・医学部コース等を担当。作成した教材から東大・筑波大等の入試長文問題を的中。コーチングを取り入れた研修方法を確立し、数多くの講師・教員の授業力・授業アンケート向上に寄与。現在、多数の私立学校にコンサルタント、アドバイザーとして関わるとともに、ネイティブスピーカーを含む学校教員・予備校講師（100名超）のコーチを務める。

ゲイリー・スコット・ファイン (Gary Scott Fine)

オレゴン州ポートランド出身。スタンフォード大学大学院修士課程修了（東アジア研究）、南カリフォルニア大学大学院修士課程修了（映画・テレビ研究）。現在、東海大学外国語教育センター准教授。主な研究テーマはエンターテインメントメディアを通じた第二言語習得。

朝日新聞・土曜版、『ENGLISH JOURNAL』（アルク）、『CNN ENGLISH EXPRESS』（朝日出版社）に映画・ドラマに関わる英語コラムを連載中。NHK教育テレビ、アルクヒアリングマラソン等多数の番組で出演及びテキスト執筆で活躍。